

平成16年9月2日

意見書

P I 外環沿線協議会協議員 湯山 茂

協議会のとりまとめに対する私の意見を、下記のとおり提出させていただきます。よろしく願います。

【意見】

練馬区上石神井の街は、40年近く外環の計画線により、建築制限を受け発展を妨げられてきました。そのため、将来的な展望も持てず、多くの経営者は不安定な現状に、後継者育成さえままならぬ状態です。

商売をするということは、その土地になじみ、その土地に愛され、その土地を育んではじめて成り立つものです。これは商売を営むものの財産であり、それを後継者へと引き継いでいくことが責務であると考えています。しかしながら外環の計画線は、40年余りもこの土地の育みをはばんで、発展に障害を与えてきました。都市の成長は、同時に小さな地域の成長でもあるはずで、このままの宙ぶりの状態では地域コミュニティの絆も破壊され、後継者も育たず、都市にありながら死んだ街へと突き進まねばならぬように仕向けられるかのようです。

私としては人間のもてるあらゆる智慧を生かして、新しい発想で街づくりと外環を含んだ都市のモデル的地域づくりをしていきたいと考えています。様々な問題に有機的に取り組み、都市の機能と街の潜在力を一体化させること。その筋道におのずから都市ならではの環境問題なども考えていけると信じております。「上石神井まちづくり協議会」は、そのような志をもつ多くの地域の人達が自発的に結集して発足し、約2年間議論をして、地域の声を代表してきました。P I 協議会における2年間の議論も、様々な立場の意見が十分とりかわされ、いよいよ最終的なまとめに入ったと考えます。

住民感情としては、長い間発展を外環の計画線により抑制されてきた経緯もあり、この上、青梅街道ICの建設がないまま、よもや道路だけが地下を通り過ぎていくような事態ともなれば、決して許し難いものとなると思われまます。地域の発展を阻止されたばかりか、未来の展望も奪われることになるのです。これは、地域の商業だけに限らず、道路整備などにも多くの影を落としてきたことでした。現状として、西武新宿線と絡み合う複雑な道路網は、この外環の計画により整備が先送りされ、様々な交通問題も起きています。交通網は道路整備もままならず、地域の人々の安全な往来にまで影響を及ぼしてきたのです。

もはや外環の必要性そのものを疑問視するような意見はないと思われまます。地域としては早急に道路問題に決着をつけ、その先の街づくりへと専念していきたいと考えています。国や都には速やかな決断を望むものです。